

令和元年度公益財団法人網走監獄保存財団事業計画

基本理念

1. 網走刑務所の旧構築物を文化財として保存します

「重要文化財、登録有形文化財、再現構築物を未来永劫に保存していくために」

2. 北海道における近代行刑資料を収集し、複製し保存します

「北海道開拓の歴史と網走監獄が果たした役割を後世に語り継ぐために」

3. 網走刑務所の明治、大正期における矯正作業を紹介します

「囚徒たちが過ごした網走監獄での日々の暮らしを紹介、体験してもらおう」

基本方針

網走監獄の歴史を紹介することをもって、網走及び北海道の教育文化の発展に寄与する

一、来館者に満足を

一、役職員一丸となって

一、経営の安定を維持

以上の思いを胸に、以下の事項を重点課題にして取り組んでまいります。

1 重要文化財の保存と価値を高める活用を図る

平成 28 年 2 月 9 日博物館網走監獄において保存公開している建造物の 2 件 8 棟が国の重要文化財に指定され 3 年が経過し、重要文化財建造物を如何に魅せるかを念頭に、展示解説やパンフレット、解説板の多言語化などを整備し、見学ルートも変更を重ねてまいりました。そのような中、来館者の博物館資料に対する認識も変わりつつあります。

今後も未来永劫この貴重な歴史的遺産を守り続けるため、一昨年より進めています「網走監獄重要文化財耐震事業」を継続してまいります。今年度は最終年度となり、昨年度までの構造診断、地盤調査を踏まえ構造実験を実施し補強案を作成いたします。

さらに、耐震補強案を鑑みながら防災管理も含めた重要文化財全体の保存活用 10 ケ年計画を完成させます。

(1) 重要文化財の建造物で最古の建築は 123 年が経過、その他の建築も 108 年を経ているため建築基準法を満たしておらず、地震をはじめ自然災害に脆弱な構造です。

特に昨年の北海道胆振東部地震にみるような、オホーツク地方においても甚大な被害が起きる事を想定しなければなりません。当館の建造物においても一刻も早く正確な危険度を認識する必要があります。

平成 29 年度より耐震専門診断を始めましたが、2 年間で木造構造調査、地盤調査を終え、その結果報告を文化庁、北海道教育委員会に提出済です。

最終年度は、木造舎房の構造材タモ材を使用し現在の舎房居室構造を製作し、旭川林業試験場において耐震実験を行います。

3 年間に渡る事業総額は、約 6 千 2 百万円です。平成 31 年度は 1 千 7 百 6 十万円の契約となっており、文化庁と北海道、網走市に申請をしていたところ、文化庁より 8 百 8 十万円網走市より百万円の内示を頂いておりますので、引き続き文化財建造物保存技術協会と平成 31 年度契約を締結し事業を進めてまいります。

(2) 重要文化財の維持にかかる防災体制の確立に取り組み、1 月 26 日の重要文化財防災デーには、網走消防署、呼人消防団にご協力を仰ぎ、放水や避難誘導などの防災訓練を今年度も実施する予定です。

引き続き職員には冬期間の除雪など日常管理に一層注視し、木造建造物を守る使命感を高めさせてまいります。また、防災設備の消火栓水抜きバルブ劣化による凍結のおそれがあるため、2 ケ所の更新を実施します。

(3) 建物見守り隊の結成

博物館友の会会員による「建物見守り隊」を結成し文化財活用月間に、重要文化財建造物の清掃や来館者への解説、監獄に纏わる食の提供などを通じて重要文化財を広報し活用を高めてまいります。

2 充実した博物館の運営を図る

観光立国の実現が 21 世紀の我が国の発展に不可欠な課題とされています。そのため地域の観光資源の魅力を生かした旅行を推進する「ニューツーリズム」に注目し、その普及に向けた事業を、どの地域でも展開している現状です。

ニューツーリズムとは、従来の観光と比較してテーマ性が強く、体験型、交流型に属し、その形態もエコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、ダークツーリズムと多様化しています。

近年訪日外国人の増加に伴い様々な分野の資源を活用した取り組みが実践されています。当館においても昨年、人気漫画「ゴールデンカムイ」の舞台として、所謂コンテンツツーリズムで話題に載ることが出来ました。

「物語性」「テーマ性」に魅力を感じゴールデンカムイの世界を実体験したいファンの方が来館され、新たな来館者層の掘り起こしとなりました。

今後定住人口が減少していく日本では、交流人口を増やすことが極めて重要になってきています。

このような中、博物館網走監獄も安定した来館者の確保に向けて、博物館固有の魅力を発掘し、その魅力を資源として様々なメディアを通じて発信していくことが、博物館運営にとって重要な施策となっていきます。

日本の博物館利用者総数は 3 億人以上と言われる今日においても、単なる古い「過去の物」を展示しているだけでなく、訪れる人々の琴線に触れることのできる歴史的遺産（ヘリテージツーリズム）の価値を創出し、付加価値をつけてご覧いただけるよう博物館の全てのコンテンツを再点検し、当館の最終目標であるユニバーサルミュージアムを目指し博物館活動を進めてまいります。

(1)博物館社会教育事業

新年度の物作り体験講座は、野外博物館のニポポの森を活用した講座と網走刑務所の刑務作業の追体験、過去から伝わる伝統行事の伝承をテーマに体験講座を企画しました。

春の体験講座「桜餅を作ろう」「館内の樹木で笛作り」、夏休み体験講座「漆喰アート写真立てを作ろう」「麦わらで虫かご作り」、刑務作業追体験「ニポポを彫ろう」、秋の体験講座「ランプシェードとキャンドル作り」冬休み体験講座「クラフトペーパーでカレンダー作り」「かんじきを作ってニポポの森を歩こう」「季節を描こう」など 9 講座を行い幅広い年代に楽しめるメニューで講座を進めます。

長期連続講座として、網走刑務所の特徴である農業を主体に「農園体験ワークショップ」を 5 月から 11 月まで 9 講座開催し、種植え、肥料除草管理、収穫、調理加工実習と一連の作業で自給自足を実践させる目的で行います。

今年は、人参、じゃがいも、とうもろこし、サツマイモ、金時豆を作り、スイートポテト、人参ジュースなどに加工、二見湖畔神社祭りへと繋げてまいります。

「看守長屋の年中行事」は、網走刑務所職員官舎を利用し、日本の古き伝統行事を博物館に来館される全ての人を対象に、体感してもらうものであり、春のお雛様祭り、五月端午の節句、夏の七夕、秋の十五夜、年末鏡餅作り、正月七草、鏡開き、節分行事と季節の移ろいと日本人の知恵と地域独自の風習を紹介するイベントとして誰でも気軽に参加できる形式で行います。

この年中行事は、近年増加する訪日外国人にも好評で、外国人が想像する日本らしさを演出し彼らの心に響くように企画してまいります。

ゴールデンウィーク、秋のシルバーウィークに実施するイベントは、家族で参加楽しめるように、子供の日にちなんだ「餅つきと柏餅のプレゼント」「伝統遊具竹とんぼ、竹笛作りの体験」、文化財建造物の資材を活用した「軟石でオリジナルストラップ作り」「豆わらじ作り」「重要文化財スタンプラリー」の実施。

二見湖畔神社収穫祭には、網走刑務所三眺神輿を網走無窮会の皆様が担ぎ廻る演出や、新そばの早食い競争、紙芝居の上演、屋台や縁日で網走刑務所の懐かしい収穫祭を再現いたします。

イベントを通じて、博物館網走監獄での思い出や体験が博物館固有の資源として認識されるよう何れの普及講座イベントも知恵を絞り進めてまいります。

(2)企画展事業

歴史館1階の企画展スペースに、4月から8月まで「名誉開発作業班～戦後復興に果たした功績」展を開催いたします。

戦後の刑務所過剰収容の緩和目的で各地の刑務所から模範囚が北海道に送りこまれ、道路、港、護岸工事の整備を行いました。地域住民から感謝された作業でもあります。

受刑者が地域復興に果たした功績を昭和23年当時の工事写真、図面、地図、受刑者に名誉作業を称えるために授与した時のメダルやレコードなどの資料を展示します。

9月から12月までは、網走刑務所の受刑者により生産され、網走の郷土土産として販売され続けている、アイヌ人の守り神と言われている「ニポポ人形」についての企画展を開催いたします。

槐の木を原料に手彫り人形として70年近くにわたりロングセラーとして様々なものに汎用され、網走の土産品として各店でデフォルメされ販売されているニポポ人形の魅力と網走市に及ぼしている影響などを紹介する企画展です。

2月から3月までは、博物館収蔵庫に収蔵されていて常設展で展示されないお宝を展示する秘蔵展を開催いたします。

当館の収蔵品では限りがあるため、今年度の企画展は、北海道中の刑務所から資料をお借りして企画展を開催いたします。

誰にでも等しく文化を享受する機会の提供は、博物館の役割であり、今後も意義ある企画展を開催できるよう資料の掘り起こしに努めてまいります。

(3)博物館網走監獄友の会

友の会は、監獄に興味のある方、並びに博物館を支えるサポーターとして11年前から会員を募り、現在団体会員10団体、個人会員46人が入会されています。

新年度も引き続き、博物館でのボランティア活動を通じて生涯学習を实践する場所として、会員それぞれの得意分野を活用し、博物館展示解説活動、イベントスタッフ、体験講座講師として支援を頂きます。

また、桜並木観桜会、中央道路開削慰霊碑清掃活動、記念講演会、建物見守り隊活動、根室厚岸の重要文化財巡り友の会バス旅行の実施など会員各自のレベルアップを目標に、高齢化社会に向けて交流人口のモデル例となるよう活力ある友の会活動を実施してまいり

ます。

(4)多言語化事業

訪日外国人入館者数が年間、約 3 万 5 千人にのぼる現状において、日本人来館者と同様に博物館の解説標記を作成し、言葉による障壁を取り除き、展示理解を深め満足度を高めていただけるように継続整備してまいります。

今年度においては、再現構築物の農庫の説明看板 5 枚についても多言語化し、LED 内蔵照明のものに更新いたします。

(5)二見湖畔神社桁葎き事業

平成 12 年に移築復原した二見湖畔神社は、大正時代に二見ヶ岡刑務所で設置されたもので、移築当時既に 80 年経過し腐朽していました。

当館の職員により、腐朽した材を入れ替え、桁を葎きなおし再建したものです。移築後 18 年が経過し屋根桁葎きの傷みが激しく葎き替えが必要となりました。

従来の高価な、さわら材にこだわらず、道内産の松材を使用し桁葎き職人による葎き替えを実施いたします。収穫祭に欠かせない網走刑務所神社の遺構は文化財に指定されておりませんが、歴史的遺産として大切に修復し保存活用してまいります。

3 展示建造物の維持管理並びに館内の環境整備を図る

保存公開する旧網走監獄建造物の重要文化財指定により当財団には新たに文化財所有者責任が生じ、重文指定建造物の耐震化に取り組むこととなりました。建造物の耐震補強工事には多額の費用が見込まれるため、今後の設備投資と資産管理にはより細やかに取り組み、既存固定資産の延命化を進めます。施設機能充実は既存施設の利用方法の検討、一部改修によりコスト削減に配慮して対応を進めてまいります。

- (1) 文化財建造物の維持事業は、登録有形文化財「旧網走監獄裏門」「レンガ造り独居房」の笠石部分の再建、屋根下地の修復作業を行ないます。
移築再現構築物である「二見湖畔神社」は再現工事から 20 年が経過し桎葺屋根材の劣化が散見している事から桎葺替え作業を行ないます。
文化財の維持作業に当たっては建造物専門家からアドバイスを受けながらそれぞれ専門業者に作業を委託、進めることといたします。
- (2) 再現展示建造物の維持事業は、見学者の安全と建造物の延命を考慮し進めます。「鏡橋」は再建工事から 5 年が経過した事から木製部材への防腐剤塗装を実施、舎房左側に設置した「高見張り」は木材の腐朽が進んでいる事から 脚部材の更新補強作業を行ないます。
- (3) 博物館機能の充実事業として、建築から 36 年が経過した体験学習施設「まなびや館」の金属屋根葺替え工事、旧網走監獄水門情景展示「筏(いかだ)」の FRP 再現、博物館来館者の利便向上を目的とする入場口のオープンカウンター化を含む「総合管理棟改修基本設計」を進め、既存固定資産の延命によるコスト削減に取り組んでまいります。
- (4) 館内設備安全対策事業として、復原裁判所棟及び重要文化財教誨堂正面階段・スロープへのゴムチップマット敷設、園路夜間照明 2 基増設、駐車場停車枠・誘導ライン改修を行ないます。
- (5) 防災対策事業として、屋外消火栓2ヶ所の更新を行ないます。来館者の安全確保と重要文化財建造物保全、職員の防災意識・対応技術向上を目的に、継続して総合防災訓練の実施、防災設備の点検・見直しに取り組みます。
- (6) 環境整備、館内の景観整備事業として来館者を和ませる景観造りを宿根草花壇整備、敷地内樹木、緑地管理作業を周辺自然環境に配慮しながら進めます。
冬期除雪対策は駐車場除雪を引き続き委託作業とし効率的な安全管理を進めます。

4 経営の安定を図るため入館者の確保と収益事業の強化

1. 入館者の確保

平成 30 年度の博物館網走監獄入館者数は、240,000 人程度(前年度末比 3%程度減少)を見込みますが、5 月 GW 期間が低温、悪天候により道内観光客の動きが低調だった事、9 月に発生した北海道胆振東部地震、全道ブラックアウトの風評、10 月以降の旅行代理店企画団体商品送客減が減少要因です。しかしながら 12 月以降の入込、特に個人型入館者の動向が好調であったため、落ち込み幅を最小限に抑えることができ、この 10 年間で見ますと前年度に続く好調な入込で終える見込みとなりました。

これは本年がドラマ、バラエティに関わらずテレビ番組での露出の機会が多かったこと、明治時代の網走監獄が舞台の一つとなる漫画作品「ゴールデンカムイ」のテレビアニメ放送が行われた事などが施設知名度、興味度上昇に繋がり、入込み回復に影響したと考察できます。

しかしながら依然、交通インフラ拡充も遅々として進まず宿泊数も伸び悩んでいる当地の状況は続いており、如何に好調を維持し続けていくかが新年度の大きな課題となります。

入館者確保対策は先ず好調な個人型入館者を維持するためインターネット、SNS を活用する情報発信、メディア露出につながる話題づくりなどに取組みます。

国の海外観光客誘致政策に連動し、当館においても増加傾向のある海外個人型観光客(FIT)確保を主題として多言語化など受け入れ態勢の細かな整備、行政や地域観光団体と連携し海外向け情報発信対策を進めます。

減少傾向が続く団体旅行誘致に係る旅行代理店への渉外活動については、入館管理 POS を活用し利用状況を把握分析し効率的に対処します。

- (1) 好調な入館状況を維持することを目標とし、新年度有料入館者の目標を 25 万人(30 年度見込比 4%増)、入館料収入を 225 百万円(30 年度見込み比 3%増)とします。
- (2) 海外誘致対策として次の事業をすすめてまいります。
 - ① 展示、誘導標識を含め多言語表示、国際共通サインへの切り替えを継続して進めます。
 - ② 網走市、地域連携団体等の実施する海外観光客誘致事業に連携協力し、海外メディアや旅行代理店、航空会社受入れへの協力や、海外キャンペーンへの参加などの対応を進めます。
- (3) 個人型入館者誘致を目的とする情報発信手段としてインターネット・SNS の活用を推進します。
- (4) テレビ・雑誌等のメディア取材に丁寧に対応し、映画、ドラマ、PV 撮影等を積極的に受け入れ、漫画や文芸作品の制作協力を行うことにより施設の露出頻度、話題づくりを進めます。

2. 収益事業の強化

収益事業会計の運営は、細やかな対策を積み重ねることにより増収対策を進め、当初目的である公益事業会計、法人事業会計への収入補填を行なうものとします。

- (1) 物販、食堂、賃貸料収入等による収益事業会計の収入目標を 59,9601 千円(前年度予算費 1.2%増)とします。
- (2) 物販事業は、話題づくりにも繋がる商品企画や取扱商品の再検討を進めるほか、販売管理 POS システムの更新を行い、クレジット、電子決済の導入を進め入館者の利便向上と増収対策を進めます。
- (3) 食堂事業は、広報対策や新メニュー企画開発などを進め利用者増加を図ります。
- (4) 物産館賃貸事業は、テナント入居者との連携を密にし、当財団が所有する登録商標『網走監獄』を使用する新しい商品開発などを相互が健全な運営を行える環境整備を進めます。